

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0771100179		
法人名	有限会社タムラ		
事業所名	グループホームはこべ B棟		
所在地	福島県田村市常葉町常葉字七日市場99番地		
自己評価作成日	令和4年9月30日	評価結果市町村受理日	令和4年12月26日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/07/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人福島県福祉サービス振興会		
所在地	〒960-8253 福島県福島市泉字堀ノ内15番地の3		
訪問調査日	令和4年11月16日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

開所より17年、地域の皆様や地域の医療機関との信頼関係の構築が図られ、看取り対応型グループホームとして、ご利用者様とご家族様の生活をサポートできていると自負しております。未だ終息の見えない新型コロナウイルス感染症対策のため、ご利用者、ご家族、また職員も忍耐を強いられる生活が続いております。ご利用者様の安全、安心な生活を守るため、感染対策の徹底と笑顔あふれる「心ある介護」の提供を心掛けております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所内に掲示しており、理念については直ぐに確認できるようになっている。勉強会にて理念に込められた思いを確認したり、話し合いを行ったりした。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	近隣の方は殆ど顔なじみとなり、地域との繋がりも継続できている。買物は地域の商店を利用し、訪問理髪や野菜の訪問直売も地域の方が来られている。地震や台風、大雪の後には「大丈夫だったかい」と地域の方に声をかけてもらうこともある。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	特別な機会は設けていないが、普段から相談や問い合わせがあれば、認知症の人の理解や支援方法について話し合ったりしている。必要があれば相談機関や医療機関に繋がられるよう支援している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、事業所の取組内容や具体的な改善課題がある場合にはその課題について話し合い、会議メンバーから率直な意見をもらい、それをサービス向上に活かしている	コロナ対策の為、現在は会議開催を見合わせ、文書にて事業所の状況報告を行っている。来所や電話で状況報告を下さったり、地域でお会いした際には情報交換を行ったりして、地域課題等の情報収集も行っている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	不明なことがあれば市の担当者へ連絡し相談するようにしている。入所状況や待機者数の報告、事故発生時の報告等を行っている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束廃止委員会にて話し合いを行っている。玄関施錠はしていない。離床センサーマット使用の方へは、音が鳴ったら訪室し離床介助を行うようにしている。家族の強い要望でベッド4点柵の方がいる為、本人が不安にならないように声掛け見守りを行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止の意識を持ち続けていられるよう、普段から日常のケアが虐待となっていないか等を、職員同士で話し合っている。勉強会や朝のミーティング等にも虐待防止について話し合っている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるように支援している	課題を抱えての入所となった方がおり、市や関係機関と相談しながら、入所後に制度活用となった方がいる。ご本人が安心して過ごして居られるよう、今後も関係機関との連携を図っていきたい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時は十分な説明を行い、納得していただけるよう努めている。また、一度の説明で理解納得が難しいこともある為、いつでも不明点は電話をいただけるようお伝えしている。改定時も書面にて説明し同意を得ている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	普段から利用者や家族等の意見には耳を傾け、必要なことは所長へ繋ぐようにしている。利用者の担当介護職員は、3か月毎のケアカンファレンス前には改めて意見要望を伺うようにしている。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	普段から意見や要望を発しやすい環境であり、何かあれば所長に伝えている。必要時には所長から社長へ繋がるようになっている。月末の全体会には社長、所長も出席し意見交換を行っている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員一人ひとりの実情に応じて、働き方の調整がなされている。働き方の要望についてはいつでも所長に相談できる環境であり、職員の家庭の事情ややりがい、向上心に配慮されている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	コロナ予防対策により、法人内外の研修の機会は少なかったが、市内病院にて開催された、褥瘡予防とポジショニングの勉強会に数名の職員が参加できた。また1名の職員は病院での介護実習を受けることができた。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市役所にて市内グループホーム職員での意見交換会があった。コロナ禍での対応や困難事例についてなどを話し合った。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所前に可能な限り実態調査を実施し、本人との会話の中から、不安なことや要望など、思いを汲み取れるよう努めている。些細なことでも本人が不安に思っていることは、十分な説明を行うよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所相談時に家族等から、今までの状態や思いなどを話していただけるよう促している。話しやすい環境や雰囲気作りに努め、要望についても積極的に伺いながら、入所後の対応について話し合っている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人、家族等の意見を十分に伺いながら、必要としている支援を、事業所看護師や介護職の立場として見極め検討するよう努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員が気付かない細かい部分の変化にも、利用者同士で気づき職員に伝えてくれる場面や、お互いに声を掛け合ったりしている部分も多く見られている。また、職員の変化にも気付いて下さっている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	コロナ禍の為、面会制限が続いている。電話にて状態報告を行ったり、家族等の状態も同ようにしている。窓越しやドア越しで面会していただいたり、必要時は面会やカンファレンスへの参加を強くお願いすることもある。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	月に数回、介助にてご家族へ電話される利用者がある。年賀状や贈り物が届いた際は、その方の話や思い出話を伺っている。コロナ禍により面会外出が難しい為、日常会話の中で馴染みの人や場所の話をしたり、ご家族の写真を一緒に見て名前を覚えていただいたりしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	日常生活の中で、お互いに関心を持ちながら気にかけて合ったり声をかけ合ったりなどの場面が見られている。食事摂取がすすまない方に対しては、食べられるように応援の声かけをしたりなど支えてくださっている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	必要時には、相談に応じることができるように努めている。看取り介護後、契約終了となったご家族が野菜などを持ってきてくださったりと、交流が継続している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	意思疎通が可能な方には、十分に希望や意向、思いなどを伺うように努めている。思いを表出することが難しい方に対しても、本人の思いをくみ取ることが少しでもできるよう、話し合いを行ったり検討したりしている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所以前の情報等は、家族等や関係機関から得ている部分が多い。本人からも日常会話の中で生活歴などを伺っている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりの心身の状態を把握し、「今」どのようにしたいかを確認し、本人のペースに合わせた生活を送っていただけるよう、対応に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	3か月ごとに所長、事業所看護師、計画作成担当、家族等、担当介護職員での利用者ケアカンファレンスを行い、介護計画について話し合っている。又、担当職員が中心となり、現場職員の意見などを吸い上げている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	職員間での情報共有が、業務日誌や申し送りノート、介護記録などで行われている。職員間の情報共有により介護計画の見直しに活かされている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や家族等のニーズに対して、必要があれば可能な範囲での支援に努めている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	入所前の担当ケアマネに来所いただいたり、社協職員の相談援助を受けたりされる方がいる。外出が困難な為、ご家族と一緒に銀行職員が来所して下さったこともある。又、訪問理髪に来られる方も認知症の理解があり、利用者との馴染みの関係となっている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入所時に本人、家族等とかかりつけ医受診についての話し合いを行っている。協力医療機関や専門医受診が安心してできるよう支援している。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	利用者の状態変化時や気づき等を、事業所看護師へ伝えるようにしている。事業所看護師から主治医へ繋ぎ指示を受けられる体制となっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	事業所看護師が病院関係者との関係作りに努めている。入退院時には事業所看護師が連絡調整、情報提供を行いスムーズに対応することが出来ている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時に重度化対応や看取り介護について、考えていただくよう話をしている。家族等に意向の確認を書面にて半年ごと、必要時は随時行っている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	体調急変や事故発生時の対応について、普段から話題に出して、その都度確認し合えるように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	新型コロナウイルス感染症防止の為、事業所内のみで通報訓練等を行った。防災については、常日頃から意識し、話し合いを行っている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者個々の自尊心やプライバシーに配慮した声掛けなど、十分注意するよう心掛けているが、難聴の方に対して声のトーンなど配慮に欠けてしまうことも多い為、注意が必要である。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	認知症や身体状態の重度化により、自己表出が難しい方も多くなっている為、本人の思いを代弁できるよう努めている。様々な選択肢を提案し、「今」どうしたいのかなど、自己決定できるよう努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	レクリエーションや軽体操の声かけ行いが、参加は本人の意思に任せている。居室で過ごしたい方など、本人のペースで過ごしていただけるよう努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	男性の方は毎日髭剃りを自分でされている。女性の方にもできる方には鏡を提供し整容の関心を持てるよう促している。自ら髪をとかされたりすることもある。寝たきりの方へも、目元口元や襟元の清潔介助に注意している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事に関連した作業を利用者とともに職員が行い、一緒に食事を味わいながら利用者にとって食事が楽しいものになるような支援を行っている	野菜の種類によっては、皆で皮むきやすじ取りなどを行うこともある。食事については、何が食べたいか利用者に向ったり、旬のものを取り入れた料理を手作りし提供している。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事水分の摂取状況確認を個々に行っている。一人ひとりに合わせた食事形態での提供に努め、摂取量低下時には、好みの物や摂取しやすい物を提供するなどしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、出来る方には声掛け見守りにて行っていただき、必要な方には介助行うなど、個々に合わせた支援を行っている。寝たきりの方には口腔ケアスポンジや口腔ケアシートを使用し介助を行っている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々の身体状況を把握し排泄支援を行うよう努めている。日中可能な方はトイレでの排泄を支援している。身体状態の重度化によるオムツ使用の検討については、家族等も含め話し合いを行っている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	一人ひとりの排便ペースの確認を行い、便秘予防に努めている。乳製品を促したりして内服薬以外にも便秘予防に努めている。便秘時には事業所看護師に報告し対応している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	一人ひとりの状態に合わせて入浴介助を行っている。身体状態の重度化がみられる方は、看護師勤務日に職員2名対応で入浴介助を行っている。入浴声かけに別日を希望される時には、可能な限り希望に添った支援に努めている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの状況に応じての休息支援を行っている。利用者様より夜間眠れないと話があった時などは、原因や生活ペースについて話し合ったり、必要に応じて事業所看護師に報告し対応している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員がすぐに確認できる場所に、処方薬の説明書を保管している。薬の変更があった場合には、事業所看護師より説明を受け、情報共有できるよう努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々の状態に応じて行事の装飾品作成、飾りつけ、新聞紙折り等を促している。又、外気浴の際に一緒に摘んだ花の名前を教えてくださいたり、誕生日には本人のリクエストメニュー提供、行事食や季節の食べ物などの食の楽しみ支援等、日常での楽しみごとの支援を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ禍による外出制限もあった為、積極的な支援は難しかった。コロナの状況が少々改善された際に、短時間の市内ドライブと紫陽花の花見に行かれた。天候の良い日には、敷地内の散歩や外気浴の介助を行っている。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	希望があれば家族等と相談のうえ、少額の現金を持っていただくことも出来るようになってきている。現在は現金を持たれている方はいない。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	携帯電話を持たれる方へは使用状況を見守り、電話の希望がある方は事務所の電話や子機にてお話できるよう支援している。家族等から手紙や年賀状などが届いた際は、必要な方へは代読したりするなどの支援を行っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホールや玄関などには季節を感じられる飾りつけをしている。ホールと台所が近く、調理中の音や匂いなども側で感じてもらえるようになっている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	テレビを視聴されたり、テーブル席にての読書、塗り絵を行ったり、又、職員とお喋りを楽しんだり、利用者同士で会話をされたりと、それぞれに過ごされている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室、或いは泊まりの部屋は、プライバシーを大切にし本人や家族と相談しながら、居心地よく、安心して過ごせる環境整備の配慮がされている(グループホームの場合)利用者一人ひとりの居室について、馴染みの物を活かしてその人らしく暮らせる部屋となるよう配慮されている	一人ひとりに合わせ居室環境を整えている。奥様が作られたテーブルカバーを使用したり、自ら仕上げた塗り絵を飾られる方もいる。布団や物の位置などにこだわりがある方には、思いを尊重し対応したり、要望がある方は居室でテレビやラジオをゆっくりと楽しめるよう配慮したりしている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	生活用品等に名前を貼ることで、自分の物と確認し安心して使用されている。部屋を間違えないようドアにネームプレートを掲げたり、浴室やトイレの目印をつけたりして対応している。視力障害の方へは、身の回りの物品位置を変えない等注意している。		